

(HP公開様式)

政務活動費の調査研究に係る海外調査、宿泊を伴う県外調査の概要

1 題目：未来やまなし政務調査

2 調査報告概要

調査者 会派名等	[会派名、調査者全員の氏名] 会派名 未来やまなし 調査者 土橋亨、清水喜美男、古屋雅夫、笠井辰生
調査内容	1 調査目的 徳島県、香川県における先進的事例について、ごみゼロを宣言した町の具体的取り組みの現状と課題、小型バイオマス燃料発電の導入の経緯と稼働状況、有償ボランティアタクシー運用の現状と課題、地域おこし協力隊の活用事例や、防災拠点機能を併せ持つスポレク施設の運営状況、世界農業遺産を活かしたまちづくりの現状と課題、DXを活用した官民協同のまちづくり事例等を把握し、山梨県の県政運営に活かしていくため。 2 調査テーマ 1、上勝町の取り組み 2、防災拠点 3、世界農業遺産 4、かがわDX Lab 3 調査期間 令和6年3月25日～令和6年3月27日 (2泊3日) 4 調査地 [海外→国名・都市名]・[国内→都道府県名・市町村名] 徳島県勝浦郡上勝町、徳島県徳島市、徳島県美馬郡つるぎ町、 香川県高松市 5 その他

3 調査テーマ毎の調査項目と選定理由

<p>[調査テーマ] 上勝町の取り組み</p>	<p>[調査項目] 上勝町の取り組みについて</p> <p>[選定理由] ゼロ・ウェイスト運動(全国に誇るごみ分別 42 種類自治体) 彩いろどり事業 (全国販売視野 6 割におよぶ地域資源活用事業) 有償ボランティア輸送事業 (過疎地域における交通手段の確保対策) など複数の町の取り組みを本県に活かすため</p>
<p>[調査テーマ] 防災拠点</p>	<p>[調査項目] 防災拠点機能を持つスポレク施設について</p> <p>[選定理由] 今年 1 月に能登半島地震が起こり、本県でもいつ起こるか分からない災害のために平時からも活用ができる防災対策として興味があり選定した。</p>
<p>[調査テーマ] 世界農業遺産</p>	<p>[調査項目] 世界農業遺産の保全と取り組みについて</p> <p>[選定理由] 国連食糧農業機関 (FAO) が、伝統的で重要な農林水産業を営む地域を「世界農業遺産」として、世界で 26 カ国 86 地域、日本では 15 地域を認定し、山梨県では、令和 4 年に峡東地域が認定された。 このことを受け、価値ある認定を受けた峡東地域を、より活力ある持続可能な地域とするために、先進的な活動を展開している徳島県の「にし阿波傾斜地農耕システム」を訪問し調査した。</p>

<p>[調査テーマ] かがわ DX Lab</p>	<p>[調査項目] まちづくり DX について</p> <p>[選定理由] 少子高齢化における労働力不足など社会構造の変化にデジタル技術を活かしてどのように対応できるのか、多様な働き方や人材力の強化、人材育成を進める社会DXの取り組みの推進状況を調査する。</p>
-------------------------------	--

4 調査項目に係る調査都市・施設・担当者等の選定

調査項目	都市（市町村）名・施設名・担当者名及び選定理由
<p>上勝町の取り組みについて</p>	<p>[都市（市町村）名・施設名・担当者名] 徳島県勝浦郡上勝町 合同会社パンゲア CEO</p> <p>[選定理由] 本県でも SDGs（持続可能な開発目標）環境への配慮に関する取り組みは共通課題であり、特にゼロ・ウェイストの取り組み、高齢者の元気事業「いろどり事業」、「過疎地域の交通対策・ボランティア輸送事業」など再構築された現状の確認、および新たな取り組みについて現場（上勝町）を見て、知って県政に反映していくため。</p>
<p>防災拠点機能を持つスポーツ施設について</p>	<p>[都市（市町村）名・施設名・担当者名] 徳島県徳島市 東部防災おきのすインドアパーク 徳島県議会事務局 議事課 副課長</p> <p>[選定理由] 本県は徳島県のように海に面してはいないが、南海トラフ地震で甚大な被害が予想される徳島県の危機感からくる最新の施設でもある防災拠点だと思うために本県の災害対策にも活かすために選定した。</p>

<p>世界農業遺産の保全と取り組みについて</p>	<p>[都市（市町村）名・施設名・担当者名] 徳島県美馬郡つるぎ町 徳島剣山世界農業遺産推進協議会事務局 つるぎ町役場 産業経済課 課長補佐</p> <p>[選定理由] 徳島県西部に位置する阿波地域は、国内有数の斜度の高い傾斜地を有する中山間地域であるが、様々な知恵や技術を工夫しながら「日本の原風景」と言われる暮らしを営んでいる。 過疎高齢化問題や耕作放棄地問題、さらには鳥獣被害などに直面しながらも「生活の豊かさ」を享受している姿は、山梨県として大いに参考になるものである。</p>
<p>まちづくり DX について</p>	<p>[都市（市町村）名・施設名・担当者名] 香川県高松市 かがわ DX Lab 香川県議会事務局 政務調査課 副主幹</p> <p>[選定理由] 県と市町村が連携し、官民協働でデジタルを活用した地域課題・行政課題の解決に取り組んでいる先進事例であるため。</p>

5 調査内容

○調査テーマ：（ 上勝町の取り組み ）

<p>調査項目</p>	<p>上勝町の取り組みについて</p>		
<p>調査都市等</p>	<p>徳島県勝浦郡上勝町 合同会社パンゲア</p>	<p>調査日</p>	<p>3月25日 13：30～ 16：00</p>
<p>調査結果概要</p>	<p>「ゼロ・ウェイストへの運動」 2001年35項目分別が現在は、13種類45項目に分別・全国一番 「彩・いろどり事業」 上勝町の年商2400万円の背景と「元気な高齢者」の働き甲斐 有償ボランティア輸送事業 町民ボランティアに格安で町民の足交通・輸送を確保している</p>		

○調査テーマ：(防災拠点)

調査項目	防災拠点機能を持つスポレク施設について		
調査都市等	徳島県徳島市 東部防災おきのすインドアパーク	調査日	3月26日 9：30～ 11：00
調査結果概要	埋立地で海拔の低い土地であるため常に津波や潮位上昇への備えを行い、日常的には家族で一日過ごせる文化スポーツ施設が整備されている。災害時には避難所として、また支援物資を集積し必要な場所に送り出す広域物資輸送拠点として機能するため、設備や遊具などは解体・移動可能なもので構成されている。		

○調査テーマ：(世界農業遺産)

調査項目	世界農業遺産の保全と取り組みについて		
調査都市等	徳島県美馬郡つるぎ町	調査日	3月26日 13：30～ 16：30
調査結果概要	<ul style="list-style-type: none"> (1) 斜度30度以上にもなる厳しい急傾斜地で農業を営むための知恵や工夫 (2) 持続的に生活を営み、命を継承していくための、工夫された等高線農業と食文化 (3) 急斜面農業にマッチした独自の農具開発や農業技術の伝承 (4) 採草地を中心とした多様な動植物との共生 (5) 「お堂」を生活軸にした営農文化の維持・継承 (6) 人間生活と景観が調和したランドスケープの形成 		

○調査テーマ：(かがわ DX Lab)

調査項目	まちづくり DX について		
調査都市等	香川県高松市	調査日	3月27日 9：30～ 11：00

調査結果概要	<p>県の職員が常駐し、市町村の職員や、会員企業のスタッフとはオンラインで、あるいは対面で常に情報交換がなされている。</p> <p>テーマごとのワーキンググループが設置され、地域課題に対して、DXによる課題解決の取り組みが官民協働で進められている。</p> <p>隣接の情報通信交流館では、デジタル機器利用の講座のほか、先進的デジタル機器の利用環境が用意され、子どもから高齢者までが高度なICT環境を自由に利用できている。</p> <p>専任のコーディネーターが複数名常在しアドバイスを行い、元利用者がコーディネーターに就くなど人材育成の好循環システムにもなっている。</p>
--------	---

○各参加者の所感及び調査結果の活用方針

議員氏名	所感及び活用の考え方
土橋亨	<ul style="list-style-type: none"> ・上勝町の取り組み バイオマス事業は山梨でもゴルフ場等で進めている。SDGsをはじめとしたゴミゼロの活動は全国的にも知られており実際に見ることができて良かった。 ・おきのすインドアパーク 企業より徳島県に寄贈された建物を活用し、平時からスポーツイベントや子育てイベントなど市民に親しまれる施設として、また災害時には防災拠点としてヘリポートなどが使えるようにしてあり、わが県でも参考にしたいと思う。 ・世界農業遺産 つるぎ町役場から現地はかなり人里離れた自然の中であったが、逆にその原風景を生かし過疎化から脱却したいと思いを感じられた。 ・かがわ DX Lab 官民共創のコミュニティ拠点として活動している。行政課題をDXにより解決していくことはこれから重要になると思い、Labのような取り組みは山梨県には無いので大変、参考になった。
清水喜美男	<p>今回の研修は、毎日の生活に密着したテーマに焦点をあて実施したが、大変参考になる気付きが多く得られた。今後の議員活動に積極的に生かしていきたい。</p> <p>(1) 徳島県上勝町 合同会社パンゲア</p>

	<p>人口1300人余、高齢化率53%、森林面積88%という、四国で一番小さな町が起こしたサステイナブルな先進事業は、「アイデアこそ命」～のモデル事業であり、素晴らしい内容であった。特に、①「彩事業」は、埋もれた地域資源に光を当て成功した事例であるが、こうした「足元の見直し」は山梨県にとっても最優先課題と感じた。②「ゼロ・ウェイスト事業」は、世界的課題である環境問題に、全住民があるべき姿をしっかりと理解した上で参加しているモデル事業である。③「上勝起業塾」は、過疎化、高齢化社会における新しい社会創出の原点を感じた内容であった…等。</p> <p>(2) 徳島県徳島市 東部防災館おきのすインドアパーク</p> <p>「自分の可能性に気づける場所」をコンセプトに、昨年9月にオープンしたこのパークは、いくつかの特徴を持っていた。</p> <p>①「カルチャー＋スポーツ＋イベント」、更には、災害時における広域物資輸送拠点機能をも有する複合施設である。②高齢者や若い世代との交流のし易さや楽しみ易さが工夫されていた。③子育て支援や子供の遊びなど、「命と教育」を追求したデザインやレイアウトに斬新さがあった…等。</p> <p>(3) 徳島県美馬郡つるぎ町 世界農業遺産</p> <p>急峻な山々に囲まれた山梨県にとって、今回の「にし阿波傾斜地農耕システム」の訪問は大変参考になった。</p> <p>特に、①来るべき世界の食糧危機を先取りするような自給自足体制の確立。②果樹や自家製のお茶、伝統野菜など、在来品種の貴重な遺伝資源を伝承していく社会風土創り。③「お堂」を中心とし、自然と調和した農村文化の継承と農耕集落の維持形成…等は、持続可能な循環型社会の目指すべき姿であると感じた。</p> <p>(4) 香川県高松市 かがわ DX Lab</p> <p>香川県と県内17市町が、デジタルというツールをベースに、官民の垣根を越えてオープン且つフラットに繋がり活動している事業体であり、「人が輝く」「デザインする」「挑戦」を基本理念としている。特に、①若い世代が10～20年後を見据えた企画作りや街づくりなどの中心にいる。②真に必要なものを考え挑戦していく姿勢が徹底している。③世代や業種を超えたイノベーション拠点が上手く機能している…等は、今後の「新しい山梨創り」の見習うべき内容であった。</p>
--	--

<p>古屋雅夫</p>	<p>1. 上勝町は約 10 数年ぶりの視察でした。本報告書に視察内容を記載した通り、持続可能なまちづくりを目指す、①ゼロ・ウェイストタウン、②彩・いろどり事業、③有償ボランティア輸送事業は少し事業運営が変わったところもあったが、基本 SDGs (持続可能な開発目標) 沿った取り組みは着実に推進されていた。</p> <p>2. 東日本大震災、能登半島地震を踏まえた「徳島県東部防災館」の視察は新聞会社の印刷工場を改修し「おきのすインドアパーク」カルチャー&スポーツ&イベント等多目的活用のエリアがあり、若者・子供たち、子育てしている保護者等が利用していた。 また本施設は災害時には支援物資のこの施設に集められ、広域物資の輸送基地となる。屋上にはヘリポートがあり公共施設(多目的活用施設)の在り方を学ぶことができた。</p> <p>3. 山梨県では峡東地域が「世界農業遺産」認定(2022年7月)されました。このことを機に、山梨県と地形似た「傾斜地農耕システム」で認定された四国初の世界農業資産を視察。この斜め(傾斜地40度におよぶ)で生きる知恵、文化。つまり自然を守り、生命を守り、集落を守ってきた400年以上の歴史に感銘を受けながら、地元山梨県・峡東地域の農業遺産の継承と地域活性化への取り組みに活かせることを得た。あわせてこの「にし阿波の傾斜地農耕システム」が未来に向け継承され、地域の発展につながることを期待したい。 丁寧の説明頂いた地元住民、役場職員の皆様に感謝申し上げます。</p> <p>4. 「かがわ DX Lab」取り組みは、行政課題をDXにより意識改革を図り(見える化)、人が主役のデジタル社会・香川の形成を目指すものであり、その推進戦略として官民共創のコミュニティづくりの拠点を視察。特に取り組み流れは本県でも検討すべき課題であり、思いを強くした。県+8市町村と民間事業者36社による、「共創」「創発」活動方針に基づき、行政課題抽出・明確化⇒デジタル活用した解決策の検討⇒サービス創出のための実証実験⇒実験成果の実装と横断展開を推進しようとする、香川県デジタル戦略総室長 近藤壽文さんの熱い思いを感じた。 今回の視察はどれもが本県の県政課題と共通する事項であり、今後の取り組みに活かしていきたい。</p>
-------------	--

<p>笠井辰生</p>	<p>1. 上勝町の調査は合同会社パンゲアに対応していただいたが、同社は同町を有名にした葉っぱビジネスに始まり人材育成に取り組む町の第三セクター株式会社いろどりに参加されたスタッフが、地域おこし協力隊として立ち上げた社団法人を源流とする自然体験提供企業であり、地域振興（まちづくり）と人材育成（ひとづくり）の好事例である。</p> <p>同町が掲げる「ゼロ・ウェイスト（ごみゼロ）」政策は住民に定着し、ごみの分類は徹底されており、過疎地域の地域公共交通としての有償ボランティアタクシーも改善を繰り返し運営されている。木質バイオマス発電は林業を取り巻く環境変化に伴う苦労も抱えながら運用されていた。過疎や少子高齢化の課題に立ち向かう熱い思いを感じた。</p> <p>2. 徳島県東部防災館（おきのすインドアパーク）は民間の印刷工場を施設改修し、親子で楽しめる文化スポーツ施設になっている。主目的が災害時に支援物資を集積し、必要な場所に送り出す広域物資輸送拠点であるため、内部の備品等は解体・移動が可能で、資材パレットなどがうまく遊具として活用されていた。氷を使わない樹脂製のアイススケートリンクは初心者向けの屋内設備として興味深い。</p> <p>3. つるぎ町における「世界農業遺産」を活かしたまちづくりでは、教育旅行等の受け入れ等から宿泊施設を新設し移住者増への地域再生に取り組む栃谷さん、昔ながらの農業を受け継ぎ野菜や生こんにゃくを生産している磯貝さんのお話を伺うことができた。傾斜地農耕システムからの徳島の山々の眺望は素晴らしく、交通等不便であっても自然の恵みを大切に育み暮らす皆さんの想いが心に沁みた。</p> <p>4. かがわ DX Lab には、県の職員が常駐し、市町村の職員や、会員企業のスタッフとはオンラインで、あるいは対面で常に情報交換がなされていた。テーマごとのワーキンググループには、事業者提案による「観光・移住促進」や「要支援者等の共助モデル構築」「マイナカードで手続きワンストップ化」等、自治体による「教育データ利活用」や「関係人口創出」「地理空間データ基盤構築」等の共通課題に対して、DXによる課題解決の取り組みが官民協働で進められている。</p> <p>隣接の情報通信交流館では、デジタル機器利用の講座のほか、施設内の先進的機器（3Dプリンターやビデオ編集機材等）の利用環境が用意され、子どもから高齢者までが高度なICT環境を自由に利用できる。</p>
-------------	--

きている。また、専任のコーディネーターが複数名常在しアドバイスを行い、元利用者がコーディネーターに就くなど人材育成の好循環システムにもなっている点はとても参考になった。

6 調査状況（写真）

R6年3月25日 調査先（上勝町）



上勝町合同会社パンゲア CEO とゴミ分別センター前にて

○ R6年3月26日 調査先（東部防災おきのすインドアパーク）

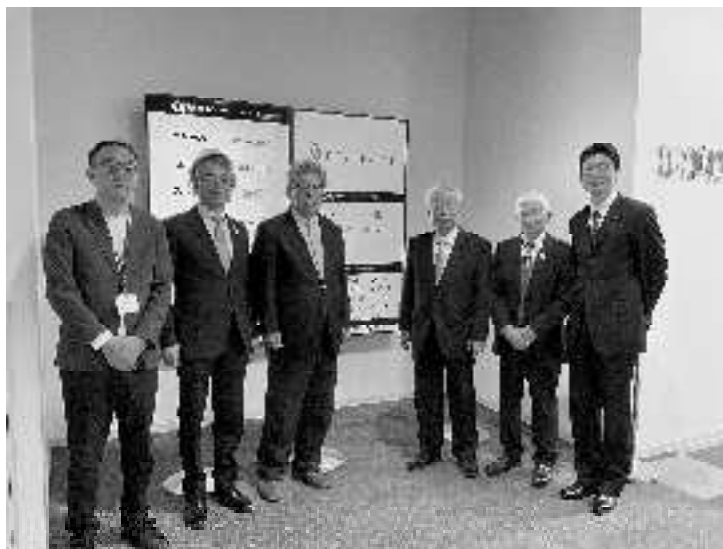


○ R6年3月26日 調査先（つるぎ町）



家賀再生プロジェクト及び磯貝農園との意見交換

○ R6年3月27日 調査先（かがわDX Lab）



香川県議会事務局政務調査課及び香川県政策部デジタル戦略総室
